

早いもので 2012 年もあとわずか。街は、選挙カーの連呼の声に替わって、ジングルベルが鳴り響き、いよいよクリスマス&お正月に向かって突き進んでいます。現在会員登録数 954 人さま。この 1 年のご愛読ありがとうございました。次号は 2013 年 1 月 22 日発行の予定です／

☆。.:*。★。.:*。☆。.: 目次 *。☆。.:*。★。.:*。

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 28

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

☆。.:*。★。.:*。☆。.:*。★。.:*。☆。.:*。★。.:

■
【1】お知らせ ☆

● 「ニッサン童話と絵本のグランプリ」受賞作品が出版されました
当財団主催、「第 28 回ニッサン童話と絵本のグランプリ」(平成 23 年度実施)の大賞受賞 2 作品が、BL 出版より出版されました。

『ぐうたら道をはじめます』瀧下 映子/作 童話部門大賞作品

大西ひろみ/絵 (第 2 回絵本部門大賞受賞者)

『ぴっちとりた まよなかのサーカス』長尾 琢磨/作 絵本部門大賞作品
表紙写真はこちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/m2_outline/05_topics/news.html#121215

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

■
【2】コラム ☆

《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

『ロージーとムサ』ミヒヤエル・デコック/作 ユーディット・バニステン
ダール/絵 久保谷洋/訳 朝日学生新聞社 2012年7月

対象年齢：小学校中学年以上

あらすじ：ロージーとママは10階建てのマンションに引っ越してきて、ネコを飼っているムサという少年に会う。ムサはロージーを屋上に連れて行くが、大家のタックさんが知らずに屋上のカギを閉めてしまう。二人は、手紙を書いて助けを求め、9階に住むおばあさんが助けてくれる。ベルギーの作品。

O：横書きの作品ですが、自然に読むことができました。

Y：文中にペン画のイラストが入っており、文と絵が調和しています。

私は、気難しい大家さんが、屋上にやってきて、ムサとロージーが隠れているとは知らないで踊りだすところの絵と文が、楽しかったです。

O：階段のイラストが上下に住む人々のつながりや、ロージーとママが引っ越してきて心細い気持などを巧みに表現していると思いました。屋上に閉じ込められるという私たちの日常生活の中でも充分にあり得るストーリーでした。

Y：二人はどうやって助かるかという点にスリルがありました。そして、閉じ込められている間に、二人が「あべこべの世界」を想像するところもおもしろかったです。ネコを犬に見立てる、寒いのに暑いと思う、怖いのに怖くないと思う、「ぼくが白人で君が黒人だ」と思うなどです。父親と別れて母子で引っ越してきたロージーがこれから生き抜くために必要な人生の知恵が、遊びの中でムサによって伝えられています。

O：脇役の大人たちもユニークでした。例えば、気難しい大家さんには毎週会いに来る昔からの親友がいますし、ロージーたちを助けたおばあさんは、一人暮らしで鳥を飼っていて、屋上のカギをちゃっかり持っていて、双眼鏡で町を見ているというように、短い描写で個性的な人物を描きだしていました。

Y：引っ越したばかりのときに、ロージーがママに生牡蠣を買って慰めるシーンからはママの悲しさが感じられ、大家さんに言われてムサの父親や他の住人とともに屋上にいてロージーたちを探すところでは、母親としての責任感が感じられ、ロージーとともにママもここの住人として生きて行く覚悟が少しずつ芽生えていることが伝わりました。

O：そういうことが、さりげなく描かれている点がよかったです。久しぶりに立体的な絵を見たような気持ちになる、楽しい作品を読みました。

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 28 ☆

その6 絵本の読み方(3) 絵本を見せる

おはなし会で、声は子どもたちに充分届いているのに、絵本が傾いていたり、読んでいる間に揺れたりすることで、子どもの集中がとぎれてしまう場面に出会うことがあります。

多くの絵本が長方形または正方形で、絵本の形が物語世界へ入る窓のような役割をしています。そこで、絵本を水平に保つように持つことで、画面が安定し、絵本の世界を楽しむことができます。そのためには、のど（本の真ん中の閉じの部分）をしっかり持ち、脇を閉めることによって、絵本を安定させることが大切です。

絵本の持ち方は、人によって利き手があるので絶対ではありませんが、手前から送りだすようにページをめくるようにすれば、手や腕が画面をさえぎることがありません。そのためには、横書きの本は、右手で本を持ち、縦書きの本は、左手で本を持つことになります。

自分ではまっすぐ絵本を持っているつもりでも、傾いてしまっている時があるので、鏡で見たり、グループの人にチェックしてもらったりすることが必要です。また、新しい絵本は、開いても紙が浮き上がって画面が湾曲することがあるので、事前にしっかりと開きぐせをつけ、絵本を開いたときに、画面が平らになるように準備しておきます。

大切なのはページをめくる動作です。指が乾燥してページがめくりにくい場合などに、ページをめくったとたんに次のページをめくる準備をする人がいますが、見ている子どもにとっては、次のページをめくろうとする手が気になって作品世界に入り込むことができません。あせらず、文を読み終わってからめくるようにしましょう。

そして、いつも同じペースでページをめくるのではなく、物語の展開に合わせて画面をしばらく見せてからゆっくりめくったり、読み終わってすぐめくったりするなど、めくり方に緩急をつけ、全体のリズムができることが大切です。

* 次号は「その6 絵本の読み方(4) 1冊の絵本を読む」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。(Y)

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー ☆

一次資料データベース篇8回目。今回ご紹介するのは以下のサイトです。
●神奈川県立図書館 神奈川デジタルアーカイブ 電子版 戦時文庫目録
http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/digital_archives/senjibunko.htm

戦時文庫とは、第二次世界大戦下、国民の戦意高揚を目的に発行された資料群で、貸出文庫のことです。文部省の主導により、開戦前夜から戦中期にかけて全国の図書館は貸出文庫を設置。当時、県立図書館がなかった神奈川は、もとは北条家が鎌倉時代に造った「金沢文庫」をその任にあて、県下の図書館・学校・青少年団等を対象に貸出を始めたといえます。

通常、こうした軍事色の強い資料は戦後GHQに接收されたか、あるいは接收を恐れて自主的な廃棄処分がなされ、現在では殆ど残されていません。しかし昭和44年、金沢文庫で仏像出展のため展示室の整理を行っていたところ、須弥壇(仏像を安置する台座)の下から、夥しい数の図書が発見されました。これが本コレクションなのですが、接收を恐れた文庫関係者が後世のために秘匿したものと考えられています。戦時下の言説や思潮を考えるうえで、極めて貴重な資料といえるでしょう。

資料は全部で1,570冊あり、そのうち児童書は276冊。石森延男、池田宣政、火野葦平ら、当時を代表する作家たちの作品が目を見せます。日本教育紙芝

居協会編の紙芝居も6点あります。ただ、サイトではすべてがデジタル画像で見られるわけではなく、現在は表紙のみの限定公開。全文公開をぜひ期待したいものです。

一方、戦時文庫のリスト（付：解題）や書名や著者名索引、参考文献などとともに、文庫の成り立ちやその考察、略年表なども掲載されています。奇跡的に残された戦時文庫の記録、ぜひ併せてご覧ください。（J）

※次号は、一次資料データベース篇〈その9〉の予定です。

《4》 行って来ました！ ☆

美術館「えき」K Y O T Oで開催されている「レオ・レオニ 絵本のしごと」に行ってきました。

教科書等でもなじみのある「スイミー」や「フレデリック」などの絵本の原画等が、あらすじや解説とともに約130点展示されています。

「個性を生かして—ちょっぴり かわり者のはなし」「自分は自分—みんなとちがうことは すばらしいこと」「自分を見失って—よくばりすぎは よくないはなし」「知恵と勇気—ちいさなかしこい ゆう者たちのはなし」という4つのテーマに分けて展示されています。

原画は、油彩や水彩をはじめさまざまな技法で描かれていて、絵本で見るよりいっそう美しく迫力があります。よく見れば、千代紙の桜の模様を切り抜いてコラージュされていたり、木の葉がスタンプだったりします。地面や水面のマーブル模様の独特な風合いや色使いにも見入ります。ねずみやかえるなどの小さな動物たち一匹一匹には、それぞれの個性や動きが感じられ、自ずと物語世界へと引き込まれます。

デフォルメされた動物だけでなく、本物のように見える小石の絵本や、ちょっと奇妙で本当にありそうな幻想の植物を描いた「平行植物」シリーズの版画や彫刻もあり、見ごたえもたっぷりです。「自分とは何か、自分らしくあること」を追求したレオニの制作にかけの思いが胸に迫ってきました。

最後のコーナーでは、「スイミー」の魚たちが群れたり離れたりしている映像が流れ、側にレオニの絵本がたくさん置いてあります。ソファに座って余韻にひたりながら、ゆっくりページをめくりました。（K）

【3】全国のイベント紹介 ☆

●「ぴっちとりた まよなかのサーカス」～音楽と絵本のコンサート～

第28回ニッサン童話と絵本のグランプリ 絵本大賞受賞作品出版記念

日 時：2013年1月6日（日） 開演13：30

会 場：電気文化会館 ザ・コンサートホール（名古屋市中区）

出 演：長尾琢磨（絵本作家）、北川美晃（作曲・ピアノ）、
児玉たまみ（朗読）、豊田かおり（ソプラノ）

料 金：有料

お願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：財団法人 大阪国際児童文学館 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp

^☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆^
